

メビウスのレポート



特定非営利活動法人メビウス千葉 活動報告 After Autumn 号 2019年1月20日発行

メビウス千葉会員の皆さま、こんにちは。さてこの度、メビウス千葉のホームページを開設いたしましたのでご案内させていただきます。以下のURLにて順次公開中です。是非ともお立ち寄りください。

【 [http:// mebius-chiba.org](http://mebius-chiba.org) 】

治療を優先させる判決が続く。

病的窃盗を抱え、執行猶予中に及んだ万引き事案で公判中だった寮生の二人に、治療を優先させる再度の執行猶予判決が続けて言い渡されました。二人とも条件反射制御法による治療や当施設でのプログラム生活が考慮されての判決であると評価しています。

警察庁の統計によると、2017年に万引で摘発された5万8634人のうち二割強に窃盗の前科があり、同じく17年の犯罪白書によると、窃盗の受刑者が二年以内に窃盗などの罪で再入所した割合は約23%で、覚せい剤取締法違反(約19%)などよりも高い傾向があるようです。米国精神医学会の診断基準に照らせば、万引きで逮捕された者の実に4~24%が病的窃盗である可能性がある、とも言われています。

最近ではようやくこのように「病的」であると認められる反復事犯に対して、社会内での治療を進めながら、更生の監察を続けようとする決定も増えてきました。しかしその中に規制薬物の事案は未だ当然のごとく含まれてはいません。

今回はこの寮生たちの判決を機会に、改めて病的窃盗=クレプトマニアへのサポートや治療作業について紹介したいと思います。

下総精神医療センターの薬物乱用・中毒専門病棟でも近年、クレプトマニアで入院治療を受ける者が増加しているようですが、もちろん条件反射制御法はこの病態にも大きな効果をもたらします。

条件反射制御法の治療は4段階に構成されており、4番目、最後の維持ステージは集中治療が終わって退院してからも医師の指示があるまでずっと永続します。メビウス千葉でのサポートはこの維持ステージの促進が柱となっていて、キーワード・アクション、疑似、想像作業の回数管理に加え、実店舗(スーパーやコンビニ)における疑似作業の実施も含まれています。実際にお店に入り、陳列棚の間を歩き、商品を手にとって、そのまま元に戻す。ただそれだけの作業ですが、その間に自身の欲求の度合いやキーワード・アクションの効果などを詳しく観察することができるのです。一時的に欲求が高まってしまい実施に不安がある場合などにはスタッフが同行してサポートします。

また、クレプトマニアには摂食障害をともなっている者が多く、その場合、食事や健康状態の確認、指導なども必要となってきます。これには医師との綿密な連携が必須であり、一般的にクレプトマニアの回復管理が難しいと言われる原因でもあります。

家庭環境や対人関係、就労状況など様々な要因が重なり合って発症、併発、悪化しているケースがほとんどで、生活基盤の再建に向けた取り組みも一筋縄ではゆきません。ひとつひとつの要因に対処してゆくためにはそれなりの時間も当然必要となってきます。

クレプトマニアへの対応は我々スタッフもまだまだ不慣れな点も多く、当事者たちと良く話し合い、試行をくり返す中からメビウス千葉としての正解を見つけてゆくつもりで今後も寄り添ってゆきます。

一進一退、成果の一方では問題も……。

メビウス動静報告



10月

恒例となっている誕生日会から始まり、穏やかで静かな月となりました。

ハンドクラフトに参加しているメンバーの活動が活発に行われていたようです。下総精神医療センターで行われたイベントや市中心部で行われるフリーマーケットの下見などへ積極的に出掛けていました。一方で、薬物の案件で裁判を抱えていた寮生のひとりに実刑が言い渡され、収監となりました。当施設では土木作業に参加し、意欲的にリハビリ生活を送っていたメンバーだけに、とても残念な出来事でした。

また、月末から複数の女性メンバーが調子をくずし再入院となってしまいました。なぜか季節の変わり目になると毎回、体調や気分の調子を悪くするメンバーが増えるようです。その内のひとは処方薬がキチンとされておらず、訪問看護との連携にもより注意が必要だと感じました。

11月

月の初めにアルコールでの問題を抱える寮生のひとりが飲酒した上で事件を起こし、警察案件となってしまいました。幸いにもしばらくの留置後に放免され再入院となりましたが、一歩間違えれば大きな事件となっていた事態だけに、本人には猛省が迫られます。

また、病的窃盗を抱え公判中だった寮生が万引きの再犯を犯して逮捕されました。彼は入院の順番待ちでの入寮であったために治療もこれからが本番のタイミングで、サポートの態勢も十分ではなかったのかと考えさせられます。この月にはもうひとり、入院待ちで入寮した者がいました。彼女は飲酒での問題を抱えていましたが、やはり寮での飲酒が止まらず度たびトラブルを起こしていました。このように入院の順番待ちで未治療の状態から入寮を受け入れるケースがこれからも予想されます。その一方で、そんな寮生たちの生活のすべてに目を配るのは物理的に不可能であり、対応策の検討が急務だと考えられます。

月末、ハンドクラフトのメンバーが千葉市の「いい街ちばフリーマーケット」に出店しました。出品商品の選定や展示法など課題も多く見つかる有意義な活動となったようです。

12月

裁判もひと段落し、入退院も少ない静かな年末でした。

年末年始に実家へと帰省した者もいるようですが、多数の者は寮でのクリスマス、そして正月となったようです。と言うのも、寮生の多くは自らの問題行動がもとで、実家(家族)との関係をこじらせてしまっている傾向にあります。つまり、帰りたくても帰れない、あるいは実家や家族との接触を制限されている状態にある者も少なくありません。メビウスで過ごす時間の中で解決すべき問題は皆、多く抱えています。その中でも家族との関係を取り戻すことは最も難しく根深い問題であり、そのほとんどは時間が解決するのを待つことぐらいしかできないのが現実でしょう。

※ 12月末日時点での在籍者

男性 19名 女性 7名 (うち入院者4名を含む) 在籍総数 26名

会員の皆さまへ、寄附協賛のおねがい。

メビウス千葉では予てより来春の開始を目標に就労継続支援B型事業へ参入し、新たに作業所を開設するプロジェクトを進めて参りました。現在ではその具体的な計画もまとまり、物件の選定や申請手続きを始めているところです。

就労継続支援のB型事業とは、障害者総合支援法に基づき千葉市より指定を受けて実施される支援サービスのひとつで、障害や難病を抱える者のうち、年齢や体力、病態などの理由から一般の企業等での就労が困難である方々に対して軽作業などの就労の機会を提供し、また、その訓練を行う福祉事業のことです。

具体的には現在ダイナイトケア利用者が基本活動として行っているハウス野菜の選別・梱包作業の規模を拡大させ、広く一般からも利用者を募集することで地域への貢献度を高めようとするものです。

もちろん、当施設利用者にとっても就労意欲の維持や向上、また基本的な生活訓練の上でも必要不可欠な活動であることに変わりはありませんし、今後もプログラムの中心に置かれます。また、法人としては行政から受けるサービス提供料が貴重な収入源となり、就労支援やその他プログラムの充実に役立てることができます。

一方で、千葉市の指定を受けるには自前の作業所が必要となり、新たに物件の契約、改装、維持をしていかななくてはなりません。他にも専任のスタッフや有資格者の配置、開始当初の運営費など相当額のイニシャル・コストが必要となるのは言うまでもありません。私どもの見積もりではおよそ五百万円ほどの初期費用を想定しておりますが、今後、法人としての活動の幅を広げてゆくためにはこのプロジェクトを軌道に乗せる必要があると考えております。

つきましては、この度のプロジェクト発足の意義と意向をご理解いただき、誠に恐縮ではございますが、寄附協賛のお願いを申し上げます。

寄附協賛内容： 一口 一万円 募集期間： 2019年3月末日まで

寄附協賛方法： 銀行振込にて

振込先： 京葉銀行 本町支店 普通 2958191 特定非営利活動法人メビウス千葉

お問い合わせ担当： 鈴木康之 043-310-7335

「いい街ちばフリーマーケット」に初出店！

11月25日に千葉駅前銀座通りにて行われた「いい街ちばフリーマーケット」へ初めて出店しました。

当日は天気も良く、暖かかったせいかお客さんの出足も上々で、通りは家族連れを中心に終日賑わっていました。早めの出店申し込みが功を奏したのか、ブースも通りの中心部付近をキープすることができました。

今回は初めての出店ということもあり、デコ・ソープを中心に展示してお客さんの反応をうかがうことが主な目的でしたが、メンバーの皆で役割を分担し、店番の交代もスムーズに、おおむね予定通りの運営がで

きたようです。

肝心のソープの反響は今ひとつ、といったところでしたが、次回は手に取れるソープの見本を用意したり、他のクラフト商品の充実をはかったりと、売り方の工夫にも趣向を凝らしてみたいと感じました。

今の段階ではこのハンドクラフトの活動もまだまだ生活訓練の一環であったり、利用者たちの作業療法的な意味合いが大きいというのが現状です。その他にも、リハビリ生活にまだ自分のペースが掴めていないメンバーが一人だけで過ごす時間をなるべく少なくしようとする役割もあります。メビウス千葉は社会復帰へ向けたリハビリ施設ではあるものの、寮生たちがそこへ向ける意識であったり、向上心であったりは必ずしも皆同じではありません。それでも、少しずつでも自立した自分の生活を取り戻したいとする意欲を保ち続けるためには「何もすることがない時間」を極力無くすことも重要だと考えています。皆の置かれた状況や能力に違いはあっても、時には仲間の力も借りながら日々何かしらを積み上げてゆく。これからもそんな活動の場にしてゆきたいと考えています。

新年のスタート、想いも新たに。

自らは望まぬ問題行動の反復傾向をひとたび抱え込んでしまった私たち。社会復帰という杓子定規な言葉に背中を押され、ある者は問題行動が反復しはじめる以前の生活を基準に、またある者は今までとはまったく違った新しい生き方を目指して歩き始めます。もちろん最初から具体的な手段や目標が定まっている人のほうが少なく、多くは何もないところから手探りでスタートとなるでしょう。その中には「ただ日々、問題行動を起こさないように生活する」ことだけで精一杯なメンバーもいます。皆それぞれに設定した目標が違えば、能力や回復の度合いにも違いはあります。ただ、私たちがメビウス千葉として目指すべき「社会復帰」にはいくつか共通項としているものがあります。新年のスタートにあたり、今一度、私たちの活動の基本となる回復と社会復帰について改めて考え、心機を新たにしたいと思います。

「社会生活のなかで問題行動をふたたび起こさない」というのが実社会へ復帰してゆく第一歩となることは言うまでもありません。これには、問題行動をふたたび起こさない環境を作りあげる、という意味も含まれています。たとえ以前と同じような仕事に復帰でき、同じような生活パターンを取り戻したとしても、やはり、以前と同じような経路でふたたび問題行動を引き起こしては意味がありません。それには当然のことながら治療の継続が無理なく行ってゆける環境が不可欠です。私たちはかつて、薬物やアルコール、窃盗などの問題行動が原因で仕事や家庭に影響をおよぼし、自身の生活さえも脅かした挙句に仕事先から解雇を言い渡されたり、離婚や一家離散、経済的にも心身的にも平穏な生活を営めなくなった経験をしています。しかし、回復が進んだ者や社会復帰を急ぐ者の中にはそういった過去の辛酸を忘れ、目の前の生活の利便にだけ気持ちを向けてしまう者もいます。何が自分にとっての本当の回復なのか、社会復帰なのかを常に見極めてゆかなければなりません。

もうひとつは「焦らず時間をかけて一歩ずつ段階を踏む」ということです。まずは回復に集中することから始めて少しずつ社会との接点を増やしてゆく。社会への適応能力が高い者ほどその流れの中で「自分はもう大丈夫だ、治療ももはや必要ない」と思い込んでしまう傾向にあります。就労に関しても自身の病気を隠さずに定期的な通院にも対応できるようなアルバイトからまずは始めるなどのステップが重要だと考えています。回復にはどうしてもある程度の時間が必要です。逆に言えば、そこに掛けた時間の長さが復帰すべき社会に対する信用だと言い換えることができるからです。

今年も条件反射制御法による治療を柱としたそれぞれの回復、また社会復帰へ向けて手を取り合ってゆく所存です。